シリーズ
5
栄（さかえ）

ふれ愛（あい）度一〇〇%（パーセント）

■今月の「おじゃまします――地域情報ネットワーク」は、集落合併二十周年記念イベントで、ひと回り大きく変身した栄地区におじゃましてみました。

栄――といえば、すでに皆さんもご存じのとおり、旧尻引（しりびき）と旧田子島（たこじま）が昭和四十二年に合併して誕生した村内の大字では最も新しい名称の地区です。

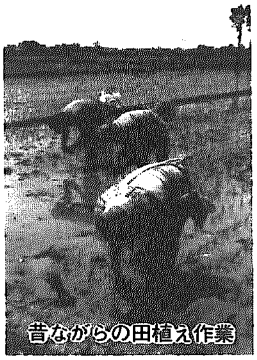
　そもそも、この地区の誕生は、今から三百二十～三百三十年前に蔦都坊（つたいちぼう）という盲目の僧が、蒲原地方を訪れたとき、ふとしたことで頬（ほほ）についた泥土から、「この地は良田と成り得る土地だ」と覚り、自ら鋤（くわ）や鍬（すき）を取り開墾したところといわれ、古くから良質米を生産してきたところです。

ふれあいを深めた「合併20周年記念大運動会」

栄ミニデータ　人口239（男124　女115）　世帯数47

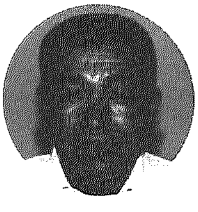
　ところで、はじめにもふれたようにこ栄地区は以前、「尻引」「田子島」という二つの集落に分れていましたが、昭和四十二年一月一日に大字合併をして現在の栄になりました。そこで合併の経緯を伺ったところ、「当時は、村内でも集落間の合併が進められていました。もともとここ尻引、田子島は、はた目では区別がつかず、地域界も家の軒先で区切られている程度でした。そのため、地区民には他地区という意識はなく、同じ集落といっていいほど人の交流が盛んで、おまけに共同作業なんかもやっていました。ですから、合併もこれといった問題もなく、自然に気運が最高潮に達して合併したような気がします。そのうえ、両集落の耕地が互いに入り込んでいて、水系も同一だったということも合併がスムーズにいった要因の一つかもしれませんね」と当時の模様を語る難波区長さん。栄という大字名も合併時、地区民の公募で決められたもので〝未来永劫（えいごう）、末長く栄えるように〟の願いを込めてつけられたといいます。

　ところで、栄地区というと昭和二十六年から続いている採種田（共有田）での共同作業は村内でも有名なもので、昔ながらの田植え、稲刈り、そしてハザ架（か）けなどをいまでも行っています。「これは昔ながらの農作業の伝統を後世に守り伝えることと、共同作業を通して地区民のふれあいと交流を図るのに役立っています。とくに、この作業がある日にはカメラマンなどが大勢押し寄せ、撮影会？みたいな雰囲気のときもありますね」とニッコリ話す区長さん。


昔ながらの田植え作業

　このように、栄地区は共同作業を通してふれあいの輪を広げるとともに団結した農業に対する意欲と努力で、いまでは村内屈指の良質米産地となったといわれます。

　栄地区も合併して昨年で二十年になりました。そこで二十周年を記念して何か思い出に残るものを――という気運が高まり、地区役員、PTA、子供会などで何回か会合を開いて、「そうだ、運動会ならみんなが楽しめ、そのうえふれあいもできるのでは」と昨年十一月、「大字栄合併二十周年記念大運動会」が村民体育館で開かれました。「いやぁ、本当にみんなから喜んでもらえてよかったですね。はじめは何をやろうかと半年も前から検討していたんですが、いざ、運動会に決まると若者を中心に計画が進み、大会当日は予想外の盛りあがりにホント大成功だったと思います。参加者も乳児からお年寄りまで全地区民の九割近くが参加し、あれは○○のせがれ、これは○○の嫁とか世代間の交流にも役立ったようですね」とうれしそうに話す区長さん。他地区からも栄の運動会は羨望（せんぼう）の目でみられたといいます。


栄区長
難波　保さん
（52歳）

　このように、記念運動会を通して、子供からお年寄りまでの総参加で、地区内の交流の輪をいっそう広げた栄地区。一つのことを通してそれぞれの心に信頼がさらに強く根づいたといいます。どうですか？みなさんの地区でもことしあたり一大イベントを計画してみては……。きっと喜ばれることうけあいですよ。

編集後記

■あれっ！今月の編集後記はこんなに圧縮されちゃって……。編集子の胸がふるえないなァ――といいつつもこれもうれしい悲鳴。そうです！地域情報ネットワークでおじゃました栄のみなさんから熱烈歓迎を受けたのが原因ここに紹介できないほどの話など[illegible]ったせいで書ききれなくなり、後記の欄を圧迫したわけです。それにしても貴重な話をしてくれた栄の区長さんはじめ斎藤正男さん、本間清さん、二宮達男さん、青柳佐さん、ご協力ありがとうございました。　こみ

■広報いわむろ　第三一六号　昭和六十三年（一九八八年）八月一日発行（毎月一回一日発行）　■発行　岩室村役場　■編集　総務課　■新潟県西蒲原郡岩室村大字西中八〇〇（〒九五三―〇一）　■☎〇二五六―八二―四一一一（代）　■印刷　北洋印刷（株）